

建学の精神 EST. 1935 (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

普通科 特進コース 普通コース 健康福祉コース 保育コース インターコース 一貫コース	看護科 看護科 看護専攻科	商業科 商業コース 美容専攻コース 製菓衛生師コース
--	----------------------------	--

看護科・看護専攻科

臨地実習

戴帽式を終えた2年生が、6月1日(月)～26日(金)までの4週間、臨地実習に臨んでいます。校内での実習とは違い緊張した面持ちで患者さんの看護にあたっていました。



実習中の諸注意を受ける実習生



保育コース

保育実習

3年生が6月1日(月)～5日(金)までの5日間、近隣の幼稚園及び保育園での実習に臨みました。実習施設は例年お世話になっている、愛真幼稚園・さかえ保育園・東筑保育園・折尾丸山保育所の4施設です。



さかえ保育園	愛真幼稚園
折尾丸山保育所	東筑保育園



読み聞かせをしている実習生

健康福祉コース

介護実習

5月19日(火)、介護実習に向けての実習宣誓式があり、2、3年生41名が臨みました。今回の実習はより重度の方々が利用されている施設やグループホームでの実習が中心で、より高度な技術が要求される大切な実習となりました。5月25日(月)～6月5日(金)まで右の施設で行いました。



特別養護老人ホーム	あますみ園
	ライフポート若松
	サンライズ北九州
	大蔵園
	ケアイン西天神
	サングリーンホーム
	ひびき荘
グループホーム	いなほ園
	やまびこ
障害児施設	引野ひまわり
	若松ひまわり
	到津ひまわり

製菓衛生師コース

5月25日(月)と29日(木)の2日間、3年生対象に特別授業がありました。25日は、BAUMオーナーの山本俊介先生をお迎えし、製パンの基礎を習いました。また、29日には例年行われています辻調理専門学校洋菓子特別授業があり、今年も筒井一夫先生をお迎えし、Tartelette aux fruits(タルレット オ フリュイ)を作りました。



BAUM
オーナー
の
山本俊介
先生

辻調理専門
学校の
筒井一夫
先生



美容専科コース

校内コンクール

6月10日(水)、第16回校内コンクールがありました。生徒の技術向上を目的にはじめられたコンクールは接客7大用語のクラス対抗とワインディング技術の2部門で行われました。接客7大用語は挨拶の基本である「いらっしゃいませ」、「ありがとうございました」、「少々お待ち下さい」、「かしこまりました」、「恐れ入ります」、「お待たせいたしました」、「申し訳ありません」の7つの言葉を大きな声で唱和していました。また、専攻科生による模擬国家試験も披露され、静粛な雰囲気の中緊張感を持って臨んでいました。



接客7大
用語披露



学校見学会(予定)

- ・ 学校紹介
- ・ 授業体験
- ・ 校内見学
- ・ クラブ紹介
- ・ 進学相談
- ・ 入試対策 等

第1回 7月11日(土)

第2回 9月19日(土)

第3回 10月17日(土)

第4回 11月14日(土)

「草創期の黒田藩と栗山大善」黒田家と宇都宮家の抗争⑨

秀吉は天正十九年(1591)十月、肥前名護屋を朝鮮出兵の拠点と定めて、築城の準備に取り掛かることとなります。今でも僻地、交通の便も至って不便な名護屋が、半島進攻の基地に選ばれたのか不明ですが、一説では、秀吉との親交のあった博多の豪商神屋宗湛の進言によるのではないかと云われています。朝鮮と至近距離にあること、名護屋湾は水深もあって奥深く入りこんで船隠しに適していること、さらに、加部島によって害から隠され、風波を妨げることなどの地理的条件を有しているからではないかと考えられています。秀吉は築城の総奉行に浅野長政、縄張り奉行に黒田官兵衛孝高、築城普請は諸大名に命じて、築城に取り掛かります。九州各藩から単純な雑労働で動員された農民は苛酷な労働を強いられたようで、石垣普請に動員された薩摩の農民は、石工や鍛冶職人のもとで雑労働に駆り立てられ、その辛さに夜逃げする者が多かったと云います。もともと、この名護屋敷城は松浦党の波多三河守親の家臣名護屋越前守経述の居城であったところを大きく改造したもので、新規の築城ではありませんでした。それでも、文禄元年(1592)二月末には一応出来上がったと伝えられていますから、前年の十月に着工、凡そ四ヶ月の短期間で仕上げています。正に昼夜兼行の、如何に想像を絶する苛酷な労働だったかが窺えます。

当時黒田は中津城主でしたから、賦役の農民は豊前から動員しなければなりません、その数は五千人前後であったらと推測されています。城主の命には逆らえない封建時代の農民の生活苦は想像に絶するものがあります。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大善」より